

# 富山マラソンの継続的な開催に向けた一考察

－リピーター創出の観点から－

高峰 大 (富山大学)

## 1. 目的

スポーツイベントには財政面での健全性と持続性、安全面の確保、地域社会への社会的経済価値の還元その他、他の同類イベントの差別化を可能にする先駆性、独創性などが必要となる。そこで、本研究では、増加する市民マラソン大会とその一方でランナーが減少する現状、市民マラソンを今後も継続的に開催していくために必要となることを、リピーター創出の観点から課題を探る。

## 2. 研究方法

2017年10月29日(日)に行われた「富山マラソン2017(第3回大会)」において、大会終了後、実行委員会事務局の協力のもと、郵送によるアンケート調査を実施した。調査期間は2017年11月～12月である。出走者12,850名を対象に、多段階無作為抽出法によって1,500名を対象とした。結果、820部を回収し、そのうち783部の有効回答を得た。有効回答率は52.2%であった。

## 3. 結果と考察

大会サービスのうち、どの因子が参加者の継続的参加に規定力を持つのか確認した。「総合満足度」及び「再参加意欲」を従属変数、サービス因子を独立変数として、重回帰分析を行い、また、「参加回数」を従属変数、「総合満足度」及び「再参加意欲」を独立変数として重回帰分析を行い、その結果をパス図に示した(図1)。

結果、「総合満足度」と「再参加意欲」の両方に影響を与えている『大会規準』はターゲットの選定により当該マラソンの方向性を明確にし、大会の具体的な枠組みを定める必要がある。同じく、双方に影響を与えている『ホスピタリティ』は、ボランティアの確保、エイド・給水所の充実などの質を維持・向上していく必要がある。図2は県外の参加者のみを抽出してモデル化したものであり、『観光・情報』

の因子からも規定関係を確認した(図2)。

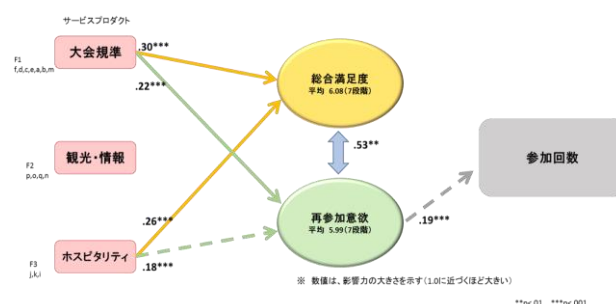


図1 富山マラソンへの参加モデル

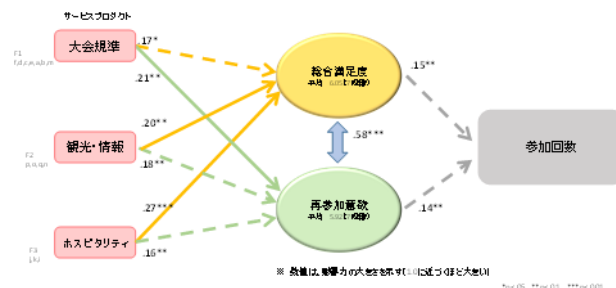


図2 富山マラソンへの参加モデル (県外参加者)

大会の総合満足度、再参加意欲は共に高く、2017年大会も2015年(初回)大会同様スポーツイベントとしては成功であることが推察できる。しかし、観光行動自体が少なく、県外からの参加者が減少し、観光・情報に関する満足度および重要度の低い傾向から、スポーツイベントの側面に加えツーリズムイベントとしての課題がより顕在化したといえよう。これらへの具体的施策の検討及び展開は、県外からの参加促進およびリピート率の向上を可能にし、富山マラソンの継続的開催に資すると考えられる。

## 4. 主な参考文献

1) 先森仁・秋吉遼子・山口泰雄:「大会満足度と地域愛着が市民マラソンの再参加意欲に与える影響に関する研究－県内・県外参加者に着目して－」神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 第8号 1巻, pp. 107-113, 2014